

お名前（ 和太鼓+ダンスユニットまだこばやし 長谷川 暢 酒井直之 山崎真結 ）

滞在先（ 大船渡市 ）

習った芸能（ 永浜鹿踊、赤澤鎧剣舞 ）

1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか？

・シンプルに面白かった。芸能の宝庫である三陸地域の生活とともにある芸能を体感するということは、生活とアートの共存の歴史を感じることでした。また、1週間習わせていただいた永浜鹿踊りさんを始め、それぞれの芸能がやればやるほど深みがあり、一本筋の通った表現への探求がありました。大人も子どももそのこだわりを大切にすることで日々を紡いでいるということがとても尊いと思いましたし、そこから生まれる美しさをもっと勉強して、できるようになりたいと今は思っています。もっと習いたいです。



永浜鹿踊りを習う<まだこばやし>のメンバー

・これまでも日本の民俗舞踊を踊った経験はあったのですが、現地の方に直接教わったのは初めてで、その土地の空気、言葉、なまりを体感しながら教わることの重要性を感じました。

（酒井）

・東京では味わえない土地柄、人柄含めて伝統的な重みあり、温かみあり、現代に繋がる軽やかさも ありという体験ができてよかった。伝承していくという大変さは計り知れないけれども、今回参加した永浜鹿踊りの方々は快く私たちに多くのことを教えてくださり、とても心地よくそして大きな話になってしまいますが日本人でよかったと思えた時間でした。

（山崎）

2) 今回三陸に滞在してみていかがでしたか？良かった点、困った点をお聞かせください。

（移動や食事、宿泊、練習場所など）

・車で大船渡まで移動してそれをずっと使っていたので基本的には特に困ったことはありませんでした。食事も三陸の美味しいものを堪能させていただきましたし、キッチンを自由に使わせていただいていたので自炊も面白かったです。宿泊はディレクターの前川さんの自宅を使わせていただきましたが、屋根裏部屋はとても快適で、ご家族の皆様も大変暖かく接して下さり大感謝です。練習 場所は出来れば近いところで固定の場所であればもっとよかったですが、東京では大音量で広々稽古できる機会も少ないので、とてもありがたい環境でした。

（長谷川）

- ・特に困ったことはありませんでした。稽古場や宿泊は十分、地元のお魚は美味しかったです。
(酒井)
- ・食事は夜になると店が閉まってしまう自炊が多かったのが少しだけ不便でしたが、新鮮な海幸を堪能することができてよかった。宿泊場所、練習場所については特に困った点はなし。
(山崎)

3) 今回の三陸での AIR は、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思われましたか？

・ダンサー・音楽家の個人としてはパフォーマンス・アートが人々の生活とどう関わり、どのように力になっているのかということ、そして日本人の歴史と生活と身体から生まれた芸能という音楽とダンスに非常に興味があります。今回体感したグルーブや音楽性や身体性を日本人アーティストとしての自分の武器に昇華できるきっかけとしたいと考えています。

また、我々まだこばやしは和太鼓とダンスと声を表現ツールとしており、今回の芸能体験とレジデンスはダイレクトにそれらのパワーになると思えました。自国の歴史を感じ、芸が生まれ発展した意味を考え、体現していくことは実は日本人のアーティストには少ない経験だと思えます。きちんと見つめることで生まれてくる新しさ、日本らしさ、そして自分たちらしさを今後発見できると思えます。
(長谷川)

・<まだこばやし>としては、自分たちの表現(太鼓とダンス)に直接的に関わることでしたので新たな表現方法の獲得になりました。

<まだこばやし>は「方法」を探り発展させていくような特徴があるので、芸能の実際の技術や、ソフトとなる芸能の特性や歴史がインストールされることで、これまでの<まだこばやし>よりも作品にバリエーションと深甚さが増したと思えます。このような機会を持つことで<まだこばやし>自体をまだまだ発展させられる可能性を感じました。
(酒井)



金津流浦浜獅子躍を習う (手前：長谷川 右奥：山崎)

・現代ではネットなどで多くの情報を得ることができますが、やはり実際にその土地に赴き、人と芸能に関わるということ得られることは多く、アーティストとしてだけでなく人間としても健康的な体験ができたと思えました。また今回<まだこばやし>としても、新たな挑戦に踏み込めるようなレジデンスであったと思えます。伝統を学び、自分たちなりの解釈をし作品としてアウトプットすることが今までなかったので、今回3月に発表ができなかったことが残念ですが、いつか必ずお世話になった方々に還元することも含めて上演できたらと思っています。
(山崎)

4) 今後も三陸の郷土芸能を習いたい、通いたいと思われたときに、AIR 以外にどのような方法や制度があると良いと思われますか？

・観光の一環としてツアーに盛り込む（見学と体感）、東京への出張ワークショップ（なんなら数日間みっちり）、芸能館のような建物を作り、そこで日替わりでパフォーマンスと体験、週末だけ習い事的に通う（1年間とか）など…個人的には「習いに行くぜ」みたいにみっちり1週間朝から晩までもやりたいです。（長谷川）

・コロナなどのご時世もありますので、やはりオンライン講習などでしょうか……圧倒的に得られる体験は変わってしまうと思いますが、コストは圧倒的にかからないので……。 （酒井）

・現在東京を拠点として活動している個人的な考えとしては、実際に三陸に行って学ぶのが一番良いかと思いますが、時間や資金などの問題が出てきた時に、例えば東京で何日間かのWS形式のものがあると参加しやすいかと思いました。

また、夏に高円寺や下北沢などで阿波踊りが踊られているように、三陸フェスみたいなものが開催されると、観て触れてみるということができるとかなとも思いました。（山崎）



金津流浦浜獅子躍の装束を付ける（長谷川）

5) 上記以外にご意見やご感想がございましたら、自由にお書きください。

・まずはレジデンスの成果発表の早期復活実現に向けて動き出したいです。大変な時期だと思いますが出来ることは協力させていただきます。また、私は黒森神楽、長野獅子躍り、中野七頭舞をやってみたいと思っています。是非これらの体験も今後やっていただけたら是非参加いたします。今後とも何卒よろしくお願い致します。（長谷川）

・三陸にこんなに豊かな芸能があるのを知れたこと、震災を越えて今、実際に暮らし、踊りを実践されている方たちに会えたこと、共に踊り、唄い、飲み、話せたことは、大きな財産になりました。とても豊かな体験をありがとうございました。（酒井）

・またぜひ、何かしらの形で三陸の土地に関われたらと思います。そしてまずは、コロナウイルスの終息と皆様のご健康をお祈りしております。（山崎）



永浜鹿踊りをビデオで鑑賞する<まだこばやし>のメンバー